

吉田准教授からのコミュニティバスに対する意見

- 1 聞き取り日時 令和3年7月13日(火) 午後1時30分～午後3時30分
- 2 同席者 中村部長、兼松課長、吉野課長補佐、加藤
- 3 意見(要点)

【犬山市の良い点】

- ・バスのブランディングができています。
- ・バス車内の利用者や運転手の雰囲気(コミュニケーション)が良い。
- ・バス路線が広くカバーされている。

【課題】

- ・バスを走らせる目的がはっきりしていない。
- ・OD データなどのデータを収集して、分析し、データを基にした議論が必要。
- ・市町間のバスの接続ができていない(ダイヤの調整が必要)。

4 意見(詳細)

【犬山市の良い点】

- ・きめ細やかなサービスは悪くない。ただ、バスルートが少し細かい所に入りすぎている。
- ・運賃が一律で1日200円。利用人数の割には、収入が確保されており悪くない。
- ・バス車内はいい雰囲気で走っている。運転手とのコミュニケーションも見受けられた。(車中の会話は、東北地方では滅多に見ない光景)
- ・利用者もバスを愛している感じがした。
- ・バス車体・バス停・バス停の表示版など、色やデザインが統一されていてよい。(ブランディングがしっかりできている。)
- ・路線が広くカバーされている。

【犬山市の課題・改善点】

- ・ターゲット、目的、利用シーンなどビジョンをはっきりさせる。バスが生活のどういう助けになるのかをはっきりさせる。
- ・車両が小さいことで利用者が逃げてしまうこともある。
- ・現在のダイヤは全路線ですべて同じ本数であることに疑問がある。どこの地区も同じということは、合理的だが、何も考えていないともいえる。
- ・利用者の目的に合わない使ってもらえない。駅から近い所はよいが、遠い所はバスが必要。
- ・大口町のさくら病院に乗り入れしているが、犬山市-大口町間でのダイヤ調整がされておらず、バスの乗り継ぎができない。(乗り継ぎできる便は6便中1便のみ)
- ・犬山市-小牧市間もダイヤ調整がされていない。
- ・車内アンケートがあるが、置いてあるだけではあまり意味がない。バスに乗り込ん

で、ヒアリングを行うことが必要。

- ・駅の周辺に何かあるわけではないので、駅で降ろされても困る。
- ・上りと下りの形を変える方法はある。降りるところ聞いて、そこに行くという方法。帰りは少し自由な運行にしてもよいのでは。
- ・もう少し楽に考えてもよいのでは。現在はターゲットを定めていないため、各地域の意見を聞きすぎて複雑なルートになっている。通勤、通学で新しい所を使うのもあり。市外への通勤客は駅につなげばよい。案として、朝・夕は通勤・通学・塾通いする人をターゲットにした直行ルート、昼間は通院客などのためにきめ細やかなルート設定という方法もある。鉄道から離れている地域に限定してもよい。
- ・さくら病院の送迎バスはあるのか。利用者が少なければ、病院までの運行はなくす方法もある。
- ・1時間に1本以上バスがあれば、経済原理は働く。現状は、生活にぎりぎり使えるライン(2時間に1本)。

【その他】

- ・オンデマンドを導入すると、台数をもっと必要。犬山の規模だと12、13台必要と考える。フルデマンドには向いていない。デマンド交通を導入すると、予約が面倒くさいので、一般的には利用者が3割減ると言われている。
- ・女性の利用者が多い。
- ・バスを使わない人も含めた無作為アンケートをやっても、バスに乗らない人はそもそもバスの必要性がないので、関心も低く、参考にならない。
- ・楽田地区の2つの路線を統合して、デマンド交通にして勝算があるか。面積で言えば、36km²になると効率が落ちる。会津若松ではスマホ予約のみ、予約できない人は今までのバスを利用。デマンドは路線運行以上に考えないといけない。タクシーの営業所は市内にあるのか。あれば、デマンドでもよい。デマンドは、タクシーの営業所の位置が重要である。
- ・大都市周辺部は犬山市の形に近い所もある。足利市、和光市、南条市など

【やるべきこと】

- ・ODデータは必須、乗車距離や乗車時間、路線またぎのデータも必要。これらのデータを取り、分析して、データを基にして議論して、再編案を検討すべき。市民がどういう交通行動をとっているのか。使っていない人は選択肢に入っていない。
- ・シミュレーションで比較した方がよい。